



## ゲートウェイの挿入

この章では、シスコでサポートするゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager データベースに挿入する方法について説明します。

- [Cisco VG200 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成 \(1 ページ\)](#)
- [Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) ポート用の CSV データ ファイルの作成 \(4 ページ\)](#)
- [Cisco VG224 Gateway およびポート用 CSV データ ファイルの作成 \(5 ページ\)](#)
- [Cisco VG202 および VG204 ゲートウェイ用の CSV データ ファイルの作成 \(8 ページ\)](#)
- [Cisco VG310 Gateway およびポート用 CSV データ ファイルの作成 \(11 ページ\)](#)
- [Cisco VG320 Gateway およびポート用 CSV データ ファイルの作成 \(13 ページ\)](#)
- [Cisco VG350 Gateway およびポート用 CSV データ ファイルの作成 \(16 ページ\)](#)
- [Cisco VG410 Gateway 用 CSV データ ファイルの作成 \(19 ページ\)](#)
- [Cisco VG420 Gateway 用 CSV データ ファイルの作成 \(21 ページ\)](#)
- [Cisco VG450 Gateway およびポート用 CSV データ ファイルの作成 \(24 ページ\)](#)
- [Cisco ISR 4461 Gateway 用 CSV データ ファイルの作成 \(27 ページ\)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイとポートの挿入 \(29 ページ\)](#)

## Cisco VG200 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成

Cisco VG200 ゲートウェイとポートを データベースに挿入するための CSV データファイルを作成することができます。BAT スプレッドシートとテキスト エディタのいずれかを使用して CSV データ ファイルを作成します。

### 関連トピック

- [Cisco VG200 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成](#)
- [BAT スプレッドシートを使用した Cisco VG200 ゲートウェイおよび T1 CAS、T1 PRI、E1 PRI、FXS または FXO ポート用の CSV データ ファイルの作成 \(2 ページ\)](#)

## BAT スプレッドシートを使用した Cisco VG200 ゲートウェイおよび T1 CAS、T1 PRI、E1 PRI、FXS または FXO ポート用の CSV データ ファイルの作成

BAT スプレッドシートを使用して、個々の T1 CAS、T1 PRI、E1 PRI、FXS または FXO ポートに関するドメイン名、MGCP の説明、ポート識別子などの詳細を含む CSV データ ファイルを作成します。

T1 CAS の場合に限り、BAT スプレッドシートで指定するポートは VG200 テンプレートで指定したポートと同じでなければなりません。CSV データ ファイル内では、テンプレートで設定されたポートの全部または一部を指定することも、何も指定しないこともできます。テンプレートで設定されていないポートを CSV データ ファイルで設定しないでください。そうしないと、BAT VG200 テンプレートと CSV ファイルを挿入する試行でエラーが発生します。

たとえば、テンプレートでポート 1、2、3、および 4 を設定した場合は、CSV ファイルでどのポートも設定しないようにすることも、ポート 1、2、3、4 を設定することも、ポート 1 と 2 だけを設定することもできます。いずれの場合も挿入操作は受け入れられます。しかし、テンプレートで設定されていないポート 5 と 6 を CSV ファイルで設定した場合は、BAT で挿入エラーが発生します。

BAT スプレッドシートでゲートウェイ ポートに関するフィールドの編集が終了したら、ファイルをエクスポートします。ファイルは、C:\XLSDataFiles またはローカルワークステーション上の選択した既存の別のフォルダに保存され、次のデフォルトファイル名が使用されます。

VG200Gateways#timestamp.txt

ここで、「timestamp」はファイルが作成された正確な日時を表します。



**注目** いずれかのフィールドにカンマを入力すると、BAT 形式にエクスポートする際に BAT.xlt はそのフィールドエントリを二重引用符で囲みます。スプレッドシートに空の行を含める場合、システムは空の行をファイルの終わりとして扱います。空の行の後ろに入力したデータは、BAT 形式に変換されません。

### 手順

- ステップ 1** BAT スプレッドシートを開くには、BAT.xlt ファイルを探してダブルクリックします。
- ステップ 2** スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (Enable Macros)] をクリックします。
- ステップ 3** [VG200 T1-Pri T1-Cas E1-Pri FXSFXO] タブをクリックします。
- ステップ 4** T1 CAS エンドポイントの場合に限り、右にスクロールして [ポート識別子の数 (Number of Port Identifiers)] フィールドを表示させます。Cisco VG200 ゲートウェイごとに追加するポート識別子の数を入力します。ポート識別子が 1 つだけ必要な場合は、この手順をスキップします。

**ステップ 5** 各行で、次のフィールドの情報を入力します。

表 1: VG200 ゲートウェイ T1 CAS、T1-PRI、E1-PRI、FXS および FXO ポート フィールドの設定値

| フィールド                            | 説明  |
|----------------------------------|---|
| MGCP ドメイン名<br>(MGCP Domain Name) | <p>ゲートウェイを識別する 1～64 文字の名前を入力します。正しく解決するように設定されていれば、ドメインネーム システム (DNS) ホスト名を使用します。それ以外の場合は、Cisco MGCP ゲートウェイで定義されたホスト名を使用します。</p> <p>ホスト名は、Cisco IOS ゲートウェイで設定されているホスト名と一致している必要があります。たとえば、ホスト名が vg200-1 に解決されるようゲートウェイで設定され、IP ドメイン名が設定されていない場合は、このフィールドにホスト名を入力します (この場合は vg200-1)。ゲートウェイでホスト名が vg200-1 と設定され、ゲートウェイで IP ドメイン名が cisco.com と設定されている場合、このフィールドには vg200-1.cisco.com と入力します。</p> |
| MGCP の説明 (MGCP Description)      | ゲートウェイの説明を最大 100 文字で入力します。ゲートウェイを特定しやすくなるように、具体的な説明を使用してください。   |
| ポートの説明                           | ポート 1 の説明を最大 50 文字で入力します。リスト内でポートを特定しやすくなるような説明を使用してください。これは、ポート 2～4 の説明フィールドにも当てはまります。   |
| ポート電話番号 (Port Directory Number)  | <p>このポートの電話番号を最大 24 文字の数字と特殊文字で入力します。これは、ポート 2～4 の電話番号フィールドにも当てはまります。</p> <p><b>注目</b> FXS ポートの場合のみ、[ポート 1 電話番号 (Port 1 Directory Number)] および [パーティション (Partition)] フィールドは必須です。FXO ポートの場合は、これらのフィールドを空白のままにします。</p>  |
| スロット (Slot)                      | 設定するスロット番号を入力します。VG200 の場合は、常に 1 です。  |
| サブユニット (Subunit)                 | サブユニット値の整数を入力します。   |
| Port Number                      | ポート番号の整数を入力します。   |

**ステップ 6** BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送するには、[BAT形式にエクスポート (Export to BAT Format)] をクリックします。

ファイルは C:\XLSDataFiles またはローカル ワークステーション上の選択した既存の別のフォルダに保存され、デフォルトのファイル名 VG200Gateways#timestamp.txt が使用されます。ここで、「timestamp」はファイルが作成された正確な日時を表します。

- (注) エクスポートした CSV データ ファイルの読み取り方法を確認するには、BAT 内の [ゲートウェイの挿入 (Insert Gateways)] ウィンドウで [サンプル ファイルの表示 (View Sample File)] リンクをクリックします。

### 次のタスク

BAT から CSV データファイルにアクセスできるようにするには、CSV データファイルを サーバーの最初のノードにアップロードする必要があります。

### 関連トピック

[CSV データファイルを作成するために BAT スプレッドシートのデータを収集する T1 CAS T1 PRI または E1 PRI トランク ファイル形式](#)  
[FXO または FXS トランク用 CSV ファイル形式](#)  
[ファイルのアップロードおよびダウンロード](#)

## Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポート用の CSV データ ファイルの作成

電話番号やポートの説明など、Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポートを データベースに挿入するための CSV データファイルを作成できます。BAT スプレッドシートとテキストエディタのいずれかを使用して CSV データ ファイルを作成します。

### 手順

- ステップ 1** BAT スプレッドシートを開くには、BAT.xlt ファイルを見つけてダブルクリックします。
- ステップ 2** スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (Enable Macros)] をクリックします。
- ステップ 3** [Catalyst 6000 (FXS) ポート (Catalyst 6000 (FXS) Ports)] タブをクリックします。
- ステップ 4** 各ポート レコードに関する情報を 1 行で入力します。

すべての必須フィールドと該当するオプションフィールドに値を入力します。各列の見出しでは、フィールドの長さが指定されます。

- [MAC アドレス (MAC Address)] : ゲートウェイの 12 桁の MAC アドレスを入力します。
- [ポート番号 (Port Number)] : ゲートウェイに追加するポート番号 (1 ~ 24 の数値) を入力します。
- [電話番号 (Directory Number)] : このポートの電話番号を最大 24 個の数字と特殊文字で入力します。パーティションを指定する場合には、電話番号を入力する必要があります。(オプション)

- [パーティション (Partition) ]: このポートが属するルートパーティションを最大 50 文字で入力します。電話番号と一緒に指定する場合を除き、パーティションを指定しないでください。(オプション)。

**注意** システムは、スプレッドシート内の空白行を End of File (EOF) として扱い、以降のレコードを破棄します。

**ステップ 5** BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送するには、[BAT形式にエクスポート (Export to BAT Format) ] をクリックします。

システムは、C:\XLSDataFiles\ または選択した既存の別のフォルダにファイルを保存します。

(注) エクスポートした CSV データ ファイルの読み取り方法を確認するには、BAT 内の [ゲートウェイの挿入 (Insert Gateways) ] ウィンドウで [サンプルファイルの表示 (View Sample File) ] リンクをクリックします。

---

#### 次のタスク

BAT から CSV データファイルにアクセスできるようにするには、CSV データファイル をサーバーの最初のノードにアップロードする必要があります。詳細については、「[ファイルのアップロードおよびダウンロード](#)」を参照してください。

#### 関連トピック

[CSV データファイルを作成するために BAT スプレッドシートのデータを収集する Cisco Catalyst 6000 FXS ポート用のテキストベースの CSV ファイルの作成 ファイルのアップロードおよびダウンロード](#)

## Cisco VG224 Gateway およびポート用 CSV データ ファイルの作成

VG224 Gateway とポートを データベースに挿入するための CSV データファイルを作成することができます。BAT スプレッドシートとテキスト エディタのいずれかを使用して CSV データファイルを作成します。

#### 関連トピック

[BAT スプレッドシートを使用した Cisco VG224 FXS ゲートウェイおよびポート用の CSV データ ファイルの作成 \(6 ページ\)](#)  
[Cisco VG224 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成](#)

## BAT スプレッドシートを使用した Cisco VG224 FXS ゲートウェイおよびポート用の CSV データ ファイルの作成

BAT スプレッドシートを使用して、ドメイン名、MGCP の説明、ポート ID などの詳細を含む個々の FXS ポート用の CSV データ ファイルを作成します。

BAT スプレッドシートでゲートウェイ ポートのフィールドを編集し終えたら、ファイルをエクスポートします。ファイルは、ローカルワークステーション上の C:\XLSDataFiles または選択された既存の別のフォルダに保存され、次のデフォルトのファイル名が使用されます。

VG224Gateways#timestamp.txt

ここで、「timestamp」はファイルが作成された正確な日時を表します。



**ヒント** いずれかのフィールドにカンマを入力すると、BAT 形式にエクスポートする際に BAT.xlt はそのフィールドエントリを二重引用符で囲みます。スプレッドシートに空の行を含める場合、システムは空の行をファイルの終わりとして扱います。空の行の後ろに入力したデータは、BAT 形式に変換されません。

### 手順

**ステップ 1** BAT スプレッドシートを開くには、BAT.xlt ファイルを探してダブルクリックします。

**ステップ 2** スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (Enable Macros)] をクリックします。

**ステップ 3** [VG224] タブをクリックします。

- MGCP プロトコルの場合は、[MGCP] オプションボタンをクリックします。
- SCCP プロトコルの場合は、[SCCP] オプションボタンをクリックします。

**ステップ 4** 次のいずれかを実行します。

- [MGCP] を選択した場合は、[ステップ 5 \(7 ページ\)](#) に進みます。
- [SCCP] を選択した場合は、[ファイル形式の作成 (Create File Format)] ボタンがスプレッドシートに表示されます。
  - [ファイル形式の作成 (Create File Format)] をクリックすると、[フィールドの選択 (Field Selection)] ウィンドウが表示されます。
  - [デバイスフィールド (Device Field)] ボックスから必須のデバイスフィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックしてそれらのフィールドを [選択済みのデバイス フィールド (Selected Device Fields)] ボックスに移動します。
  - [回線フィールド (Line Fields)] ボックスから回線のフィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックしてそれらのフィールドを [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] ボックスに移動します。

4. [上へ (Up) ] ボタンと [下へ (Down) ] ボタンをクリックして、選択したフィールドを再配置します。
5. 選択済みのフィールドのリストからフィールドを削除するには、そのフィールドを選択して [ << ] ボタンをクリックします。
6. [作成 (Create) ] をクリックして、選択したフィールドを VG224 シートに追加します。

**ステップ 5** 各行で、次のフィールドの情報を入力します。

- [ドメイン名 (Domain Name) ] : 1 から 64 文字でゲートウェイを識別する名前を入力します。正しく解決するように設定されていれば、ドメイン ネーム システム (DNS) ホスト名を使用します。それ以外の場合は、Cisco MGCP ゲートウェイで定義されたホスト名を使用します。

ホスト名は、Cisco IOS ゲートウェイで設定されているホスト名と一致している必要があります。たとえば、ゲートウェイで `vg224-1` に解決されるようホスト名を設定し、IP ドメイン名を設定しない場合は、このフィールドにホスト名を入力します（この場合、「`vg224-1`」）。ゲートウェイでホスト名を `vg224-1` として設定し、IP ドメイン名を `cisco.com` として設定する場合、このフィールドに「`vg224-1.cisco.com`」と入力します。

- [説明 (Description) ] : ゲートウェイに関する説明を入力します（最大 100 文字）。ゲートウェイを特定するのに役立つ固有の説明を使用します。
- [ポートの説明 (Port Description) ] : ポート 1 の説明を 50 文字以内で入力します。ポートの一覧でそのポートを識別できる説明を入力します。これは、ポート 2 からポート 4 の説明フィールドに適用されます。
- [ポート電話番号 (Port Directory Number) ] : このポートの電話番号を最大 24 文字の数字と特殊文字で入力します。これは、ポート 2 からポート 4 の電話番号フィールドに適用されます。

(注) FXS ポートの場合のみ、[ポート 1 電話番号 (Port 1 Directory Number) ] および [パーティション (Partition) ] フィールドは必須です。FXO ポートの場合は、これらのフィールドを空白のままにします。

- [スロット 2 (Slot 2) ] : 設定しようとしているスロット番号を入力します。VG224 の場合、スロットは常に 2 です。
- [サブユニット (Subunit) ] : サブユニット値の整数を入力します。VG224 の場合、サブユニットは常に 0 です。
- [ポート番号 (Port Number) ] : ポート番号の整数を入力します。

**ステップ 6** BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送するには、[BAT形式でエクスポート (Export to BAT Format) ] をクリックします。

システムは、デフォルトのファイル名 `VG224Gateways#timestamp.txt` を使用して、ファイルをローカルワークステーション上の `C:\XLSDataFiles` または選択された既存の別のフォルダに保存します。

- (注) エクスポートした CSV データ ファイルの読み取り方法については、BAT 内の [ゲートウェイの挿入 (Insert Gateways)] ウィンドウで [サンプルファイルの表示 (View Sample File)] へのリンクをクリックします。

### 次のタスク

CSV データ ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードすれば、BAT からそのデータ入力ファイルにアクセスできるようになります。

### 関連トピック

[CSV データファイルを作成するために BAT スプレッドシートのデータを収集する VG224 対応 FXS トランク用 CSV ファイル形式](#)  
[ファイルのアップロードおよびダウンロード](#)

## Cisco VG202 および VG204 ゲートウェイ用の CSV データファイルの作成

Cisco Unified Communications Manager データベースに VG202 および VG204 ゲートウェイとポートを挿入するための CSV データ ファイルを作成できます。BAT スプレッドシートとテキストエディタのいずれかを使用して CSV データ ファイルを作成します。

### 関連トピック

[BAT スプレッドシートを使用した Cisco VG202 および VG204 の FXS ゲートウェイおよびポート用の CSV データ ファイルの作成 \(8 ページ\)](#)  
[Cisco VG202 および VG204 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成](#)

## BAT スプレッドシートを使用した Cisco VG202 および VG204 の FXS ゲートウェイおよびポート用の CSV データ ファイルの作成

BAT スプレッドシートを使用して、ドメイン名、MGCP の説明、ポート ID などの詳細を含む個々の FXS ポート用の CSV データ ファイルを作成します。

BAT スプレッドシートでゲートウェイ ポートのフィールドを編集し終えたら、ファイルをエクスポートします。ファイルは、ローカルワークステーション上の `C:\XLSDataFiles` または選択された既存の別のフォルダに保存され、次のデフォルトのファイル名が使用されます。

`VG202Gateways#timestamp.txt` または `VG204Gateways#timestamp.txt`

ここで、「timestamp」はファイルが作成された正確な日時を表します。





**ヒント** いずれかのフィールドにカンマを入力すると、BAT 形式にエクスポートする際に BAT.xlt はそのフィールドエントリを二重引用符で囲みます。スプレッドシートに空の行を含める場合、システムは空の行をファイルの終わりとして扱います。空の行の後ろに入力したデータは、BAT 形式に変換されません。

## 手順

- ステップ 1** BAT スプレッドシートを開くには、BAT.xlt ファイルを探してダブルクリックします。
- ステップ 2** スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (Enable Macros)] をクリックします。
- ステップ 3** [VG202-VG204] タブをクリックします。
- MGCP の場合は、[MGCP] オプション ボタンをクリックします。
  - SCCP の場合は、[SCCP] オプション ボタンをクリックします。
- ステップ 4** 次のいずれかを実行します。
- [MGCP] を選択した場合は、[ステップ 5 \(9 ページ\)](#) に進みます。
  - [SCCP] を選択した場合は、[ファイル形式の作成 (Create File Format)] ボタンがスプレッドシートに表示されます。
    - [ファイル形式の作成 (Create File Format)] をクリックすると、[フィールドの選択 (Field Selection)] ウィンドウが表示されます。
    - [デバイスフィールド (Device Field)] ボックスから必須のデバイス フィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックしてそれらのフィールドを [選択済みのデバイス フィールド (Selected Device Fields)] ボックスに移動します。
    - [回線フィールド (Line Fields)] ボックスから回線のフィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックしてそれらのフィールドを [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] ボックスに移動します。
    - [上へ (Up)] ボタンと [下へ (Down)] ボタンをクリックして、選択したフィールドを再配置します。
    - 選択済みのフィールドのリストからフィールドを削除するには、そのフィールドを選択して [<<] ボタンをクリックします。
    - [作成 (Create)] をクリックして、選択したフィールドを VG224 シートに追加します。
- ステップ 5** 各行で、次のフィールドの情報を入力します。
- ドメイン名/MAC アドレス (Domain Name/MAC Address) : 1 から 64 文字でゲートウェイを識別する名前を入力します。正しく解決するように設定されていれば、ドメインネームシステム (DNS) ホスト名を使用します。それ以外の場合は、Cisco MGCP ゲートウェイ

で定義されたホスト名を使用します。SCCPゲートウェイの場合は、MACアドレスを使用します。

ホスト名は、Cisco IOS ゲートウェイで設定されているホスト名と正確に一致している必要があります。たとえば、ゲートウェイで `vg204-1` に解決されるようホスト名を設定し、IP ドメイン名を設定しない場合は、このフィールドにホスト名を入力します（この場合、「`vg204-1`」）。ゲートウェイでホスト名を `vg204-1` として設定し、IP ドメイン名を `cisco.com` として設定する場合、このフィールドに「`vg204-1.cisco.com`」と入力します。

- 説明 (Description) : ゲートウェイに関する説明を入力します (最大 100 文字)。ゲートウェイを特定するのに役立つ固有の説明を使用します。
- [スロット (Slot)] : 設定しようとしているスロット番号を入力します。VG202 および VG204 の場合、スロットは常に 0 です。
- サブユニット (Subunit) : サブユニット値の整数を入力します。VG202 および VG204 の場合、サブユニットは常に 0 です。
- ポート電話番号 (Port Directory Number) : このポートの電話番号を最大 24 文字の数字と特殊文字で入力します。これは、ポート 2 からポート 4 の電話番号フィールドに適用されます。

(注) FXS ポートの場合のみ、[ポート 1 電話番号 (Port 1 Directory Number)] および [パーティション (Partition)] フィールドが必須であることに注意してください。

- ポート番号 (Port Number) : ポート番号の整数を入力します。
- ポートの説明 (Port Description) : ポート 1 の説明を 50 文字以内で入力します。ポートの一覧でそのポートを識別する説明を入力します。これは、ポート 2 からポート 4 の説明フィールドに適用されます。

**ステップ 6** BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送するには、[BAT形式でエクスポート (Export to BAT Format)] をクリックします。

デフォルトのファイル名 `VG202Gateways#timestamp.txt` または `VG204Gateways#timestamp.txt` を使用してファイルがローカルワークステーション上の `C:\XLSDataFiles` または選択した既存の別のフォルダに保存されます。

(注) エクスポートした CSV データファイルの読み取り方法については、BAT 内の [ゲートウェイの挿入 (Insert Gateways)] ウィンドウで [サンプルファイルの表示 (View Sample File)] へのリンクをクリックします。

## 次のタスク

CSV データ ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードすれば、BAT からそのデータ入力ファイルにアクセスできるようになります。

### 関連トピック

[CSV データファイルを作成するために BAT スプレッドシートのデータを収集する VG202 および VG204 ゲートウェイ用 CSV ファイル形式 ファイルのアップロードおよびダウンロード](#)

## Cisco VG310 Gateway およびポート用 CSV データ ファイルの作成

VG310 Gateway とポートを データベースに挿入するための CSV データファイルを作成することができます。BAT スプレッドシートとテキスト エディタのいずれかを使用して CSV データファイルを作成します。

### 関連トピック

[BAT スプレッドシートを使用した Cisco VG310 FXS ゲートウェイおよびポート用の CSV データ ファイルの作成 \(11 ページ\)](#)  
[Cisco VG310 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成](#)

## BAT スプレッドシートを使用した Cisco VG310 FXS ゲートウェイおよびポート用の CSV データ ファイルの作成

BAT スプレッドシートを使用して、ドメイン名、MGCP の説明、ポート ID などの詳細を含む個々の FXS ポート用の CSV データ ファイルを作成します。

BAT スプレッドシートでゲートウェイ ポートのフィールドを編集し終わったら、ファイルをエクスポートします。ファイルは、ローカル ワークステーション上の C:\XLSDataFiles または選択された既存の別のフォルダに保存され、次のデフォルトのファイル名が使用されます。

VG310Gateways#timestamp.txt

ここで、「timestamp」 はファイルが作成された正確な日時を表します。



**ヒント** いずれかのフィールドにカンマを入力すると、BAT 形式にエクスポートする際に BAT.xlt はそのフィールドエントリを二重引用符で囲みます。スプレッドシートに空の行を含める場合、システムは空の行をファイルの終わりとして扱います。空の行の後ろに入力したデータは、BAT 形式に変換されません。

### 手順

- ステップ 1** BAT スプレッドシートを開くには、BAT.xlt ファイルを探してダブルクリックします。
- ステップ 2** スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (EnableMacros)] をクリックします。

**ステップ 3** [VG310] タブをクリックします。

- a) MGCP プロトコルの場合は、[MGCP] オプション ボタンをクリックします。
- b) SSCP プロトコルの場合は、[SSCP] オプション ボタンをクリックします。

**ステップ 4** 次のいずれかを実行します。

- a) [MGCP] を選択した場合は、[ステップ 5 \(7 ページ\)](#) に進みます。
- b) [SSCP] を選択した場合は、[ファイル形式の作成 (Create File Format)] ボタンがスプレッドシートに表示されます。
  1. [ファイル形式の作成 (Create File Format)] をクリックすると、[フィールドの選択 (Field Selection)] ウィンドウが表示されます。
  2. [デバイスフィールド (Device Field)] ボックスから必須のデバイス フィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックしてそれらのフィールドを [選択済みのデバイス フィールド (Selected Device Fields)] ボックスに移動します。
  3. [回線フィールド (Line Fields)] ボックスから回線のフィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックしてそれらのフィールドを [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] ボックスに移動します。
  4. [上へ (Up)] ボタンと [下へ (Down)] ボタンをクリックして、選択したフィールドを再配置します。
  5. 選択済みのフィールドのリストからフィールドを削除するには、そのフィールドを選択して [<<] ボタンをクリックします。
  6. 必須フィールドの選択を終えたら、[作成 (Create)] をクリックして選択したフィールドを VG310 シートに追加します。

**ステップ 5** 各行で、次のフィールドの情報を入力します。

- [ドメイン名 (Domain Name) ]: 1 から 64 文字でゲートウェイを識別する名前を入力します。正しく解決するように設定されていれば、ドメイン ネーム システム (DNS) ホスト名を使用します。それ以外の場合は、Cisco MGCP ゲートウェイで定義されたホスト名を使用します。

ホスト名は、Cisco IOS ゲートウェイで設定されているホスト名と一致している必要があります。たとえば、ホスト名が VG310-1 と解決されるようにゲートウェイを設定し IP ドメイン名を設定しない場合は、このフィールドにホスト名を入力します (この場合、「VG310-1」)。ゲートウェイでホスト名を VG310-1 と設定し IP ドメイン名を cisco.com と設定する場合、このフィールドに「VG310-1.cisco.com」と入力します。

- [説明 (Description) ]: ゲートウェイに関する説明を入力します (最大 100 文字)。ゲートウェイを特定するのに役立つ固有の説明を使用します。
- [ポートの説明 (Port Description) ]: ポート 1 の説明を 50 文字以内で入力します。ポートの一覧でそのポートを識別できる説明を入力します。これは、ポート 2 からポート 4 の説明フィールドに適用されます。

- [ポート電話番号 (Port Directory Number) ]: このポートの電話番号を最大 24 文字の数字と特殊文字で入力します。これは、ポート 2 からポート 4 の電話番号フィールドに適用されます。
  - (注) FXS ポートの場合のみ、[ポート 1 電話番号 (Port 1 Directory Number) ]および[パーティション (Partition) ]フィールドは必須です。FXO ポートの場合は、これらのフィールドをブランクのままにします。
- [スロット 2 (Slot 2) ]: 設定しようとしているスロット番号を入力します。VG310 の場合、スロットは常に 2 です。
- [サブユニット (Subunit) ]: サブユニット値の整数を入力します。VG310 の場合、サブユニットは常に 0 です。
- [ポート番号 (Port Number) ]: ポート番号の整数を入力します。

**ステップ 6** BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送するには、[BAT形式でエクスポート (Export to BAT Format) ]をクリックします。

システムは、デフォルトのファイル名 VG310Gateways#timestamp.txt を使用して、ファイルをローカルワークステーション上の C:\XLSDataFiles または選択された既存の別のフォルダに保存します。

(注) エクスポートした CSV データファイルの読み取り方法については、BAT 内の [ゲートウェイの挿入 (Insert Gateways) ] ウィンドウで [サンプルファイルの表示 (View Sample File) ] へのリンクをクリックします。

---

#### 次のタスク

BAT が、データ入力ファイルとなる CSV データファイルにアクセスできるように、そのファイルを Unified Communications Manager サーバーの最初のノードにアップロードする必要があります。

#### 関連トピック

[CSV データファイルを作成するために BAT スプレッドシートのデータを収集する VG310 対応 FXS トランク用 CSV ファイル形式](#)  
[ファイルのアップロードおよびダウンロード](#)

## Cisco VG320 Gateway およびポート用 CSV データ ファイルの作成

VG320 Gateway とポートを データベースに挿入するための CSV データファイルを作成することができます。BAT スプレッドシートとテキストエディタのいずれかを使用して CSV データファイルを作成します。

## 関連トピック

[BAT スプレッドシートを使用した Cisco VG320 FXS ゲートウェイおよびポート用の CSV データ ファイルの作成 \(14 ページ\)](#)

[VG320 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成](#)

# BAT スプレッドシートを使用した Cisco VG320 FXS ゲートウェイおよびポート用の CSV データ ファイルの作成

BAT スプレッドシートを使用して、ドメイン名、MGCP の説明、ポート ID などの詳細を含む個々の FXS ポート用の CSV データ ファイルを作成します。

BAT スプレッドシートでゲートウェイ ポートのフィールドを編集し終えたら、ファイルをエクスポートします。ファイルは、ローカル ワークステーション上の C:\XLSDataFiles または選択された既存の別のフォルダに保存され、次のデフォルトのファイル名が使用されます。

VG320Gateways#timestamp.txt

ここで、「timestamp」はファイルが作成された正確な日時を表します。



**ヒント** いずれかのフィールドにカンマを入力すると、BAT 形式にエクスポートする際に BAT.xlt はそのフィールドエントリを二重引用符で囲みます。スプレッドシートに空の行を含める場合、システムは空の行をファイルの終わりとして扱います。空の行の後ろに入力したデータは、BAT 形式に変換されません。

## 手順

- ステップ 1** BAT スプレッドシートを開くには、BAT.xlt ファイルを探してダブルクリックします。
- ステップ 2** スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (Enable Macros)] をクリックします。
- ステップ 3** [VG320] タブをクリックします。
  - a) MGCP プロトコルの場合は、[MGCP] オプションボタンをクリックします。
  - b) SCCP プロトコルの場合は、[SCCP] オプションボタンをクリックします。
- ステップ 4** 次のいずれかを実行します。
  - a) [MGCP] を選択した場合は、[ステップ 5 \(7 ページ\)](#) に進みます。
  - b) [SCCP] を選択した場合は、[ファイル形式の作成 (Create File Format)] ボタンがスプレッドシートに表示されます。
    1. [ファイル形式の作成 (Create File Format)] をクリックすると、[フィールドの選択 (Field Selection)] ウィンドウが表示されます。

2. [デバイスフィールド (Device Field) ] ボックスから必須のデバイスフィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックしてそれらのフィールドを [選択済みのデバイス フィールド (Selected Device Fields) ] ボックスに移動します。
3. [回線フィールド (Line Fields) ] ボックスから回線のフィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックしてそれらのフィールドを [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields) ] ボックスに移動します。
4. [上へ (Up) ] ボタンと [下へ (Down) ] ボタンをクリックして、選択したフィールドを再配置します。
5. 選択済みのフィールドのリストからフィールドを削除するには、そのフィールドを選択して [<<] ボタンをクリックします。
6. 必須フィールドの選択を終えたら、[作成 (Create) ] をクリックして選択したフィールドを VG320 シートに追加します。

#### ステップ 5 各行で、次のフィールドの情報を入力します。

- **ドメイン名 (Domain Name)** : 1 から 64 文字でゲートウェイを識別する名前を入力します。正しく解決するように設定されていれば、ドメイン ネーム システム (DNS) ホスト名を使用します。それ以外の場合は、Cisco MGCP ゲートウェイで定義されたホスト名を使用します。

ホスト名は、Cisco IOS ゲートウェイで設定されているホスト名と正確に一致している必要があります。たとえば、ホスト名が VG320-1 と解決されるようにゲートウェイを設定し IP ドメイン名を設定しない場合は、このフィールドにホスト名を入力します（この場合、「VG320-1」）。ゲートウェイでホスト名を VG320-1 と設定し IP ドメイン名を cisco.com と設定する場合、このフィールドに「VG320-1.cisco.com」と入力します。

- **説明 (Description)** : ゲートウェイに関する説明を入力します（最大 100 文字）。ゲートウェイを特定するのに役立つ固有の説明を使用します。
- **ポートの説明 (Port Description)** : ポート 1 の説明を 50 文字以内で入力します。ポートの一覧でそのポートを識別できる説明を入力します。これは、ポート 2 からポート 4 の説明フィールドに適用されます。
- **ポート電話番号 (Port Directory Number)** : このポートの電話番号を最大 24 文字の数字と特殊文字で入力します。これは、ポート 2 からポート 4 の電話番号フィールドに適用されます。

(注) FXS ポートの場合のみ、[ポート 1 電話番号 (Port 1 Directory Number) ] および [パーティション (Partition) ] フィールドは必須です。FXO ポートの場合は、これらのフィールドをブランクのままにします。

- **[スロット 2 (Slot 2) ]** : 設定しようとしているスロット番号を入力します。VG320 の場合、スロットは常に 2 です。
- **[サブユニット (Subunit) ]** : サブユニット値の整数を入力します。VG320 の場合、サブユニットは常に 0 です。

- [ポート番号 (Port Number) ]: ポート番号の整数を入力します。

**ステップ 6** BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送するには、[BAT形式でエクスポート (Export to BAT Format) ]をクリックします。

システムは、デフォルトのファイル名 VG320Gateways#timestamp.txt を使用して、ファイルをローカルワークステーション上の C:\XLSDataFiles または選択された既存の別のフォルダに保存します。

(注) エクスポートした CSV データ ファイルの読み取り方法については、BAT 内の [ゲートウェイの挿入 (Insert Gateways) ] ウィンドウで [サンプルファイルの表示 (View Sample File) ] へのリンクをクリックします。

---

#### 次のタスク

BAT が、データ入力ファイルとなる CSV データファイルにアクセスできるように、そのファイルを Unified Communications Manager サーバーの最初のノードにアップロードする必要があります。

#### 関連トピック

[CSV データファイルを作成するために BAT スプレッドシートのデータを収集する VG320 対応 FXS トランク用 CSV ファイル形式 ファイルのアップロードおよびダウンロード](#)

## Cisco VG350 Gateway およびポート用 CSV データ ファイルの作成

VG350 Gateway とポートを Unified Communications Manager データベースに挿入するための CSV データファイルを作成することができます。BAT スプレッドシートとテキスト エディタのいずれかを使用して CSV データ ファイルを作成します。

#### 関連トピック

[BAT スプレッドシートを使用した Cisco VG350 FXS ゲートウェイおよびポート用の CSV データ ファイルの作成 \(16 ページ\)](#)  
[VG350 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成](#)

## BAT スプレッドシートを使用した Cisco VG350 FXS ゲートウェイおよびポート用の CSV データ ファイルの作成

BAT スプレッドシートを使用して、ドメイン名、MGCP の説明、ポート ID などの詳細を含む個々の FXS ポート用の CSV データ ファイルを作成します。



BAT スプレッドシートでゲートウェイ ポートのフィールドを編集し終わったら、ファイルをエクスポートします。ファイルは、ローカル ワークステーション上の C:\XLSDDataFiles または選択された既存の別のフォルダに保存され、次のデフォルトのファイル名が使用されます。

VG350Gateways#timestamp.txt

ここで、「timestamp」 はファイルが作成された正確な日時を表します。



**ヒント** いずれかのフィールドにカンマを入力すると、BAT 形式にエクスポートする際に BAT.xlt はそのフィールドエントリを二重引用符で囲みます。スプレッドシートに空の行を含める場合、システムは空の行をファイルの終わりとして扱います。空の行の後ろに入力したデータは、BAT 形式に変換されません。

## 手順

- ステップ 1** BAT スプレッドシートを開くには、BAT.xlt ファイルを探してダブルクリックします。
- ステップ 2** スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (Enable Macros)] をクリックします。
- ステップ 3** [VG350] タブをクリックします。
  - a) MGCP プロトコルの場合は、[MGCP] オプション ボタンをクリックします。
  - b) SCCP プロトコルの場合は、[SCCP] オプション ボタンをクリックします。
- ステップ 4** 次のいずれかを実行します。
  - a) [MGCP] を選択した場合は、[ステップ 5 \(7 ページ\)](#) に進みます。
  - b) [SCCP] を選択した場合は、[ファイル形式の作成 (Create File Format)] ボタンがスプレッドシートに表示されます。
    1. [ファイル形式の作成 (Create File Format)] をクリックすると、[フィールドの選択 (Field Selection)] ウィンドウが表示されます。
    2. [デバイスフィールド (Device Field)] ボックスから必須のデバイスフィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックしてそれらのフィールドを [選択済みのデバイス フィールド (Selected Device Fields)] ボックスに移動します。
    3. [回線フィールド (Line Fields)] ボックスから回線のフィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックしてそれらのフィールドを [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] ボックスに移動します。
    4. [上へ (Up)] ボタンと [下へ (Down)] ボタンをクリックして、選択したフィールドを再配置します。
    5. 選択済みのフィールドのリストからフィールドを削除するには、そのフィールドを選択して [<<] ボタンをクリックします。
    6. 必須フィールドの選択を終えたら、[作成 (Create)] をクリックして選択したフィールドを VG350 シートに追加します。

**ステップ 5** 各行で、次のフィールドの情報を入力します。

- [ドメイン名 (Domain Name) ]: 1 から 64 文字でゲートウェイを識別する名前を入力します。正しく解決するように設定されていれば、ドメイン ネーム システム (DNS) ホスト名を使用します。それ以外の場合は、Cisco MGCP ゲートウェイで定義されたホスト名を使用します。

ホスト名は、Cisco IOS ゲートウェイで設定されているホスト名と一致している必要があります。たとえば、ホスト名が VG350-1 と解決されるようにゲートウェイを設定し IP ドメイン名を設定しない場合は、このフィールドにホスト名を入力します（この場合、「VG350-1」）。ゲートウェイでホスト名を VG350-1 と設定し IP ドメイン名を cisco.com と設定する場合、このフィールドに「VG350-1.cisco.com」と入力します。

- [説明 (Description) ]: ゲートウェイに関する説明を入力します（最大 100 文字）。ゲートウェイを特定するのに役立つ固有の説明を使用します。
- [ポートの説明 (Port Description) ]: ポート 1 の説明を 50 文字以内で入力します。ポートの一覧でそのポートを識別できる説明を入力します。これは、ポート 2 からポート 4 の説明フィールドに適用されます。
- [ポート電話番号 (Port Directory Number) ]: このポートの電話番号を最大 24 文字の数字と特殊文字で入力します。これは、ポート 2 からポート 4 の電話番号フィールドに適用されます。

(注) FXS ポートの場合のみ、[ポート 1 電話番号 (Port 1 Directory Number) ]および[パーティション (Partition) ]フィールドは必須です。FXO ポートの場合は、これらのフィールドをブランクのままにします。

- [スロット 2 (Slot 2) ]: 設定しようとしているスロット番号を入力します。VG350 の場合、スロットは常に 2 です。
- [サブユニット (Subunit) ]: サブユニット値の整数を入力します。VG350 の場合、サブユニットは常に 0 です。
- [ポート番号 (Port Number) ]: ポート番号の整数を入力します。

**ステップ 6** BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送するには、[BAT形式でエクスポート (Export to BAT Format) ]をクリックします。

システムは、デフォルトのファイル名 VG350Gateways#timestamp.txt を使用して、ファイルをローカルワークステーション上の C:\XLSDATAFiles または選択された既存の別のフォルダに保存します。

- (注) エクスポートした CSV データファイルの読み取り方法については、BAT 内の [ゲートウェイの挿入 (Insert Gateways) ] ウィンドウで [サンプルファイルの表示 (View Sample File) ] へのリンクをクリックします。

### 次のタスク

BAT が、データ入力ファイルとなる CSV データファイルにアクセスできるように、そのファイルを Unified Communications Manager サーバーの最初のノードにアップロードする必要があります。

### 関連トピック

[CSV データファイルを作成するために BAT スプレッドシートのデータを収集する VG350 対応 FXS トランク用 CSV ファイル形式 ファイルのアップロードおよびダウンロード](#)

## Cisco VG410 Gateway 用 CSV データ ファイルの作成

VG410 Gateway とポートを Unified Communications Manager データベースに挿入するための CSV データファイルを作成することができます。BAT スプレッドシートとテキストエディタのいずれかを使用して CSV データ ファイルを作成します。

- [BAT スプレッドシートを使用した VG 410 ゲートウェイ用の CSV データファイルの作成 \(19 ページ\)](#)

### 関連トピック

[BAT スプレッドシートを使用した VG 410 ゲートウェイ用の CSV データファイルの作成 \(19 ページ\)](#)  
[VG410 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成](#)

## BAT スプレッドシートを使用した VG 410 ゲートウェイ用の CSV データ ファイルの作成

BAT スプレッドシートを使用して、ドメイン名、MGCP の説明、ポート ID などの詳細を含む個々の FXS ポート用の CSV データ ファイルを作成します。

BAT スプレッドシートでゲートウェイ ポートのフィールドの編集を完了したら、ファイルをエクスポートします。ファイルは、ローカルワークステーション上の C:\XLSDDataFiles または選択された既存の別のフォルダに保存され、次のデフォルトのファイル名が使用されます。

```
VG410Gateways#timestamp.txt
```

ここで、「timestamp」はファイルが作成された正確な日時を表します。



**ヒント** いずれかのフィールドにカンマを入力すると、BAT 形式にエクスポートする際に BAT.xlt はそのフィールドエントリを二重引用符で囲みます。スプレッドシートに空の行を含める場合、システムは空の行をファイルの終わりとして扱います。空の行の後ろに入力したデータは、BAT 形式に変換されません。

## 手順

- ステップ 1** BAT スプレッドシートを開くには、BAT.xlt ファイルを探してダブルクリックします。
- ステップ 2** スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (Enable Macros)] をクリックします。
- ステップ 3** [VG410] タブをクリックします。
- MGCP プロトコルの場合は、[MGCP] オプションボタンをクリックします。
  - SCCP プロトコルの場合は、[SCCP] オプションボタンをクリックします。
  - SIP プロトコルの場合は、[SIP] オプションボタンをクリックします。
- ステップ 4** 以下のいずれかを実行。
- [MGCP] を選択した場合は、ステップ 6 に進みます。
  - [SCCP] または [SIP] を選択した場合は、[ファイル形式の作成 (Create File Format)] ボタンがスプレッドシートに表示されます。
    - [ファイル形式の作成 (Create File Format)] をクリックすると、[フィールドの選択 (Field Selection)] ウィンドウが表示されます。
    - [デバイス フィールド (Device Field)] ボックスから必須のデバイス フィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックしてそれらのフィールドを [選択済みのデバイス フィールド (Selected Device Fields)] ボックスに移動します。
    - [回線フィールド (Line Fields)] ボックスから回線のフィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックしてそれらのフィールドを [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] ボックスに移動します。
    - [上へ (Up)] ボタンと [下へ (Down)] ボタンをクリックして、選択したフィールドを再配置します。
    - 選択済みのフィールドのリストからフィールドを削除するには、そのフィールドを選択して [<<] ボタンをクリックします。
    - 必須フィールドの選択を終えたら、[作成 (Create)] をクリックして選択したフィールドを VG410 シートに追加します。
- ステップ 5** 各行で、次のフィールドの情報を入力します。
- ドメイン名 (Domain Name) : 1 から 64 文字でゲートウェイを識別する名前を入力します。正しく解決するように設定されていれば、ドメインネームシステム (DNS) ホスト名を使用します。それ以外の場合は、Cisco MGCP ゲートウェイで定義されたホスト名を使用します。
- ホスト名は、Cisco IOS ゲートウェイで設定されているホスト名と一致している必要があります。たとえば、ホスト名が VG410-1 と解決されるようにゲートウェイを設定し IP ドメイン名を設定しない場合は、このフィールドにホスト名を入力します (この場合、

「VG410-1」)。ゲートウェイでホスト名を VG410-1 と設定し IP ドメイン名を cisco.com と設定する場合、このフィールドに「VG410-1.cisco.com」と入力します。

- 説明 (Description) : ゲートウェイに関する説明を入力します (最大 100 文字)。ゲートウェイを特定するのに役立つ固有の説明を使用します。
- ポートの説明 (Port Description) : ポート 1 の説明を 50 文字以内で入力します。ポートの一覧でそのポートを識別できる説明を入力します。
- ポート電話番号 (Port Directory Number) : このポートの電話番号を最大 24 文字の数字と特殊文字で入力します。

(注) FXS ポートの場合のみ、[ポート 1 電話番号 (Port 1 Directory Number)] および [パーティション (Partition)] フィールドは必須です。FXO ポートの場合は、これらのフィールドをブランクのままにします。

- スロット (Slot) : 設定しようとしているスロット番号を入力します。VG410 の場合、スロットは 0 です。
- サブユニット (Subunit) : サブユニット値の整数を入力します。VG410 の場合、スロット 0 の場合、サブユニットは 1 になります。
- ポート番号 (Port Number) : ポート番号の整数を入力します。

**ステップ 6** BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送するには、[BAT形式でエクスポート (Export to BAT Format)] をクリックします。

システムは、デフォルトのファイル名 VG410Gateways#timestamp.txt を使用して、ファイルをローカルワークステーション上の C:\XLSDataFiles または選択された既存の別のフォルダに保存します。

**ヒント** エクスポートした CSV データファイルの読み取り方法については、BAT 内の [ゲートウェイの挿入 (Insert Gateways)] ウィンドウで [サンプルファイルの表示 (View Sample File)] へのリンクをクリックします。

---

### 次のタスク

BAT が、データ入力ファイルとなる CSV データファイルにアクセスできるように、そのファイルを Unified Communications Manager サーバーの最初のノードにアップロードする必要があります。

## Cisco VG420 Gateway 用 CSV データ ファイルの作成

VG420 Gateway とポートを Unified Communications Manager データベースに挿入するための CSV データファイルを作成することができます。BAT スプレッドシートとテキストエディタのいずれかを使用して CSV データ ファイルを作成します。

## 関連トピック

[BAT スプレッドシートを使用した VG 420 ゲートウェイ用の CSV データファイルの作成 \(22 ページ\)](#)

[VG420 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成](#)

# BAT スプレッドシートを使用した VG 420 ゲートウェイ用の CSV データファイルの作成

BAT スプレッドシートを使用して、ドメイン名、MGCP の説明、ポート ID などの詳細を含む個々の FXS ポート用の CSV データ ファイルを作成します。

BAT スプレッドシートでゲートウェイ ポートのフィールドの編集を完了したら、ファイルをエクスポートします。ファイルは、ローカル ワークステーション上の C:\XLSDataFiles または選択された既存の別のフォルダに保存され、次のデフォルトのファイル名が使用されます。

VG420Gateways#timestamp.txt

ここで、「timestamp」はファイルが作成された正確な日時を表します。



**ヒント** いずれかのフィールドにカンマを入力すると、BAT 形式にエクスポートする際に BAT.xlt はそのフィールドエントリを二重引用符で囲みます。スプレッドシートに空の行を含める場合、システムは空の行をファイルの終わりとして扱います。空の行の後ろに入力したデータは、BAT 形式に変換されません。

## 手順

**ステップ 1** BAT スプレッドシートを開くには、BAT.xlt ファイルを探してダブルクリックします。

**ステップ 2** スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (Enable Macros)] をクリックします。

**ステップ 3** [VG420] タブをクリックします。

- MGCP プロトコルの場合は、[MGCP] オプションボタンをクリックします。
- SCCP プロトコルの場合は、[SCCP] オプションボタンをクリックします。
- SIP プロトコルの場合は、[SIP] オプションボタンをクリックします。

**ステップ 4** 以下のいずれかを実行。

- [MGCP] を選択した場合は、ステップ 6 に進みます。
- [SCCP] または [SIP] を選択した場合は、[ファイル形式の作成 (Create File Format)] ボタンがスプレッドシートに表示されます。
  - [ファイル形式の作成 (Create File Format)] をクリックすると、[フィールドの選択 (Field Selection)] ウィンドウが表示されます。

2. [デバイスフィールド (Device Field)] ボックスから必須のデバイスフィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックしてそれらのフィールドを [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] ボックスに移動します。
3. [回線フィールド (Line Fields)] ボックスから回線のフィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックしてそれらのフィールドを [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] ボックスに移動します。
4. [上へ (Up)] ボタンと [下へ (Down)] ボタンをクリックして、選択したフィールドを再配置します。
5. 選択済みのフィールドのリストからフィールドを削除するには、そのフィールドを選択して [<<] ボタンをクリックします。
6. 必須フィールドの選択を終えたら、[作成 (Create)] をクリックして選択したフィールドを VG420 シートに追加します。

#### ステップ5 各行で、次のフィールドの情報を入力します。

- ドメイン名 (Domain Name) : 1 から 64 文字でゲートウェイを識別する名前を入力します。正しく解決するように設定されていれば、ドメインネームシステム (DNS) ホスト名を使用します。それ以外の場合は、Cisco MGCP ゲートウェイで定義されたホスト名を使用します。

ホスト名は、Cisco IOS ゲートウェイで設定されているホスト名と一致している必要があります。たとえば、ホスト名が VG420-1 と解決されるようにゲートウェイを設定し IP ドメイン名を設定しない場合は、このフィールドにホスト名を入力します (この場合、「VG420-1」)。ゲートウェイでホスト名を VG420-1 と設定し IP ドメイン名を cisco.com と設定する場合、このフィールドに「VG420-1.cisco.com」と入力します。

- 説明 (Description) : ゲートウェイに関する説明を入力します (最大 100 文字)。ゲートウェイを特定するのに役立つ固有の説明を使用します。
- ポートの説明 (Port Description) : ポート 1 の説明を 50 文字以内で入力します。ポートの一覧でそのポートを識別できる説明を入力します。
- ポート電話番号 (Port Directory Number) : このポートの電話番号を最大 24 文字の数字と特殊文字で入力します。

(注) FXS ポートの場合のみ、[ポート 1 電話番号 (Port 1 Directory Number)] および [パーティション (Partition)] フィールドは必須です。FXO ポートの場合は、これらのフィールドをブランクのままにします。

- [スロット (Slot)] : 設定しようとしているスロット番号を入力します。VG420 の場合、スロットは 0 または 1 です。
- サブユニット (Subunit) : サブユニット値の整数を入力します。VG420 のスロット 0 では、サブユニットが 1、2、または 3 になります。スロット 1 の場合、サブユニットは常に 0 です。
- ポート番号 (Port Number) : ポート番号の整数を入力します。

**ステップ 6** BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送するには、[BAT形式でエクスポート (Export to BAT Format)] をクリックします。

システムは、デフォルトのファイル名 `VG420Gateways#timestamp.txt` を使用して、ファイルをローカル ワークステーション上の `C:\XLSDataFiles` または選択された既存の別のフォルダに保存します。

**ヒント** エクスポートした CSV データ ファイルの読み取り方法については、BAT 内の [ゲートウェイの挿入 (Insert Gateways)] ウィンドウで [サンプル ファイルの表示 (View Sample File)] へのリンクをクリックします。

---

### 次のタスク

BAT が、データ入力ファイルとなる CSV データファイルにアクセスできるように、そのファイルを Unified Communications Manager サーバーの最初のノードにアップロードする必要があります。

## Cisco VG450 Gateway およびポート用 CSV データ ファイルの作成

VG450 Gateway とポートを Unified Communications Manager データベースに挿入するための CSV データファイルを作成することができます。BAT スプレッドシートとテキスト エディタのいずれかを使用して CSV データ ファイルを作成します。

### 関連トピック

[BAT スプレッドシートを使用した Cisco VG450 FXS ゲートウェイおよびポート用の CSV データ ファイルの作成 \(24 ページ\)](#)

[VG450 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成](#)

## BAT スプレッドシートを使用した Cisco VG450 FXS ゲートウェイおよびポート用の CSV データ ファイルの作成

BAT スプレッドシートを使用して、ドメイン名、MGCP の説明、ポート ID などの詳細を含む個々の FXS ポート用の CSV データ ファイルを作成します。

BAT スプレッドシートでゲートウェイ ポートのフィールドの編集を完了したら、ファイルをエクスポートします。ファイルは、ローカル ワークステーション上の `C:\XLSDataFiles` または選択された既存の別のフォルダに保存され、次のデフォルトのファイル名が使用されます。

`VG450Gateways#timestamp.txt`

ここで、「timestamp」はファイルが作成された正確な日時を表します。





**ヒント** いずれかのフィールドにカンマを入力すると、BAT 形式にエクスポートする際に BAT.xlt はそのフィールドエントリを二重引用符で囲みます。スプレッドシートに空の行を含める場合、システムは空の行をファイルの終わりとして扱います。空の行の後ろに入力したデータは、BAT 形式に変換されません。

## 手順

- ステップ 1** BAT スプレッドシートを開くには、BAT.xlt ファイルを探してダブルクリックします。
- ステップ 2** スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (Enable Macros)] をクリックします。
- ステップ 3** [VG450] タブをクリックします。
- MGCP プロトコルの場合は、[MGCP] オプションボタンをクリックします。
  - SCCP プロトコルの場合は、[SCCP] オプションボタンをクリックします。
  - SIP プロトコルの場合は、[SIP] オプションボタンをクリックします。
- ステップ 4** 以下のいずれかを実行。
- [MGCP] を選択した場合は、ステップ 6 に進みます。
  - [SCCP] または [SIP] を選択した場合は、[ファイル形式の作成 (Create File Format)] ボタンがスプレッドシートに表示されます。
    - [ファイル形式の作成 (Create File Format)] をクリックすると、[フィールドの選択 (Field Selection)] ウィンドウが表示されます。
    - [デバイスフィールド (Device Field)] ボックスから必須のデバイスフィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックしてそれらのフィールドを [選択済みのデバイス フィールド (Selected Device Fields)] ボックスに移動します。
    - [回線フィールド (Line Fields)] ボックスから回線のフィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックしてそれらのフィールドを [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] ボックスに移動します。
    - [上へ (Up)] ボタンと [下へ (Down)] ボタンをクリックして、選択したフィールドを再配置します。
    - 選択済みのフィールドのリストからフィールドを削除するには、そのフィールドを選択して [<<] ボタンをクリックします。
    - 必須フィールドの選択を終えたら、[作成 (Create)] をクリックして選択したフィールドを VG450 シートに追加します。
- ステップ 5** 各行で、次のフィールドの情報を入力します。

- **ドメイン名 (Domain Name)** : 1 から 64 文字でゲートウェイを識別する名前を入力します。正しく解決するように設定されていれば、ドメイン ネーム システム (DNS) ホスト名を使用します。それ以外の場合は、Cisco MGCP ゲートウェイで定義されたホスト名を使用します。

ホスト名は、Cisco IOS ゲートウェイで設定されているホスト名と一致している必要があります。たとえば、ホスト名が VG450-1 と解決されるようにゲートウェイを設定し IP ドメイン名を設定しない場合は、このフィールドにホスト名を入力します（この場合、「VG450-1」）。ゲートウェイでホスト名を VG450-1 と設定し IP ドメイン名を cisco.com と設定する場合、このフィールドに「VG450-1.cisco.com」と入力します。

- **説明 (Description)** : ゲートウェイに関する説明を入力します（最大 100 文字）。ゲートウェイを特定するのに役立つ固有の説明を使用します。
- **ポートの説明 (Port Description)** : ポート 1 の説明を 50 文字以内で入力します。ポートの一覧でそのポートを識別できる説明を入力します。これは、ポート 2 からポート 4 の説明フィールドに適用されます。
- **ポート電話番号 (Port Directory Number)** : このポートの電話番号を最大 24 文字の数字と特殊文字で入力します。これは、ポート 2 からポート 4 の電話番号フィールドに適用されます。

(注) FXS ポートの場合のみ、[ポート 1 電話番号 (Port 1 Directory Number)] および [パーティション (Partition)] フィールドは必須です。FXO ポートの場合は、これらのフィールドを空白のままにします。

- **スロット 2 (Slot 2)** : 設定しようとしているスロット番号を入力します。VG450 の場合、スロットは常に 2 です。
- **サブユニット (Subunit)** : サブユニット値の整数を入力します。VG450 の場合、サブユニットは常に 0 です。
- **ポート番号 (Port Number)** : ポート番号の整数を入力します。

**ステップ 6** BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送するには、[BAT形式でエクスポート (Export to BAT Format)] をクリックします。

システムは、デフォルトのファイル名 VG450Gateways#timestamp.txt を使用して、ファイルをローカル ワークステーション上の C:\XLSDataFiles または選択された既存の別のフォルダに保存します。

**ヒント** エクスポートした CSV データ ファイルの読み取り方法については、BAT 内の [ゲートウェイの挿入 (Insert Gateways)] ウィンドウで [サンプルファイルの表示 (View Sample File)] へのリンクをクリックします。

### 次のタスク

BAT が、データ入力ファイルとなる CSV データファイルにアクセスできるように、そのファイルを Unified Communications Manager サーバーの最初のノードにアップロードする必要があります。

### 関連トピック

[CSV データファイルを作成するために BAT スプレッドシートのデータを収集する VG450 対応 FXS トランク用 CSV ファイル形式](#)  
[ファイルのアップロードおよびダウンロード](#)

## Cisco ISR 4461 Gateway 用 CSV データ ファイルの作成

ISR 4461 Gateway を Cisco Unified Communications Manager データベースに挿入するための CSV データ ファイルを作成することができます。BAT スプレッドシートとテキスト エディタのいずれかを使用して CSV データ ファイルを作成します。

### 関連トピック

[BAT スプレッドシートを使用した Cisco ISR 4461 ゲートウェイ用の CSV データ ファイルの作成](#) (27 ページ)

## BAT スプレッドシートを使用した Cisco ISR 4461 ゲートウェイ用の CSV データ ファイルの作成

BAT スプレッドシートを使用して、ドメイン名、MGCP の説明、およびその他の関連情報などの詳細を含む CSV データ ファイルを作成します。

BAT スプレッドシートでゲートウェイ ポートのフィールドを編集し終えたら、ファイルをエクスポートします。ファイルは、ローカルワークステーション上の C:\XLSDataFiles または選択された既存の別のフォルダに保存され、次のデフォルトのファイル名が使用されます。

```
ISR4461Gateways-#timestamp.txt
```

ここで、「timestamp」はファイルが作成された正確な日時を表します。



**ヒント** いずれかのフィールドにカンマを入力すると、BAT 形式にエクスポートする際に BAT.xlt はそのフィールドエントリを二重引用符で囲みます。スプレッドシートに空の行を含める場合、システムは空の行をファイルの終わりとして扱います。空の行の後ろに入力したデータは、BAT 形式に変換されません。

### 手順

**ステップ 1** BAT スプレッドシートを開くには、BAT.xlt ファイルを探してダブルクリックします。

**ステップ 2** スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (Enable Macros)] をクリックします。

**ステップ 3** [ISR 4461] タブをクリックします。

- a) MGCP プロトコルの場合は、[MGCP] オプション ボタンをクリックします。
- b) SCCP プロトコルの場合は、[SCCP] オプション ボタンをクリックします。
- c) SIP プロトコルの場合は、[SIP] オプション ボタンをクリックします。

**ステップ 4** 次のいずれかを実行します。

- a) [MGCP] を選択した場合は、[ステップ 5 \(28 ページ\)](#) に進みます。
- b) [SCCP] または [SIP] を選択した場合は、[ファイル形式の作成 (Create File Format)] ボタンがスプレッドシートに表示されます。
  1. [ファイル形式の作成 (Create File Format)] をクリックすると、[フィールドの選択 (Field Selection)] ウィンドウが表示されます。
  2. [デバイスフィールド (Device Field)] ボックスから必須のデバイスフィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックしてそれらのフィールドを [選択済みのデバイス フィールド (Selected Device Fields)] ボックスに移動します。
  3. [回線フィールド (Line Fields)] ボックスから回線のフィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックしてそれらのフィールドを [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] ボックスに移動します。
  4. [上へ (Up)] ボタンと [下へ (Down)] ボタンをクリックして、選択したフィールドを再配置します。
  5. 選択済みのフィールドのリストからフィールドを削除するには、そのフィールドを選択して [<<] ボタンをクリックします。
  6. 必須フィールドの選択を終えたら、[作成 (Create)] をクリックして選択したフィールドを VG4461 シートに追加します。

**ステップ 5** 各行で、次のフィールドの情報を入力します。

- **ドメイン名/MAC アドレス (Domain Name/MAC Address)** : 1 から 64 文字でゲートウェイを識別する名前を入力します。正しく解決するように設定されていれば、ドメインネームシステム (DNS) ホスト名を使用します。それ以外の場合は、Cisco MGCP ゲートウェイで定義されたホスト名を使用します。SCCP ゲートウェイの場合は、MAC アドレスを使用します。

ホスト名は、Cisco IOS ゲートウェイで設定されているホスト名と一致している必要があります。たとえば、ゲートウェイで ISR 4461 と解決されるようにホスト名を設定し IP ドメイン名を設定しない場合は、このフィールドにホスト名を入力します（この場合、「ISR 4461」）。ゲートウェイでホスト名を ISR 4461 と設定し IP ドメイン名を cisco.com と設定する場合、このフィールドに「ISR 4461.cisco.com」と入力します。

- **[説明 (Description)]** : ゲートウェイに関する説明を入力します（最大 100 文字）。ゲートウェイを特定するのに役立つ固有の説明を使用します。

- [スロット (Slot) ]: 設定しようとしているスロット番号を入力します。ISR 4461 の場合、スロットは 0、1、2、または 3 です。
- [サブユニット (Subunit) ]: サブユニット値の整数を入力します。ISR 4461 のスロット 0 では、サブユニットが 1、2、または 3 になります。スロット 1、2、または 3 の場合、サブユニットは常に 0 です。
- [ポート電話番号 (Port Directory Number) ]: このポートの電話番号を最大 24 文字の数字と特殊文字で入力します。これは、ポート 2 からポート 4 の電話番号フィールドに適用されます。
  - (注) FXS ポートの場合のみ、[ポート 1 電話番号 (Port 1 Directory Number) ] および [パーティション (Partition) ] フィールドは必須です。
- [ポート番号 (Port Number) ]: ポート番号の整数を入力します。
- [ポートの説明 (Port Description) ]: ポート 1 の説明を 50 文字以内で入力します。ポートの一覧でそのポートを識別できる説明を入力します。これは、ポート 2 からポート 4 の説明フィールドに適用されます。

**ステップ 6** BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送するには、[BAT形式でエクスポート (Export to BAT Format) ] をクリックします。

デフォルトのファイル名 `ISR4461Gateways-#timestamp.txt` を使用して、ファイルがローカルワークステーション上の `C:\XLSDataFiles` または選択した既存の別のフォルダに保存されます。

(注) エクスポートした CSV データファイルの読み取り方法については、BAT 内の [ゲートウェイの挿入 (Insert Gateways) ] ウィンドウで [サンプルファイルの表示 (View Sample File) ] へのリンクをクリックします。

---

### 次のタスク

BAT が、データ入力ファイルとなる CSV データファイルにアクセスできるように、そのファイルを Unified Communications Manager サーバーの最初のノードにアップロードする必要があります。

## Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイとポートの挿入

BAT スプレッドシートを使用して、シスコゲートウェイとポートを Cisco Unified Communications Manager に追加することができます。

## 始める前に

- Cisco VG200 ゲートウェイを挿入する場合は、トランク用またはポート用の Cisco VG200 ゲートウェイテンプレートと、VG200 ゲートウェイポート用の CSV データファイルが必要です。「[Cisco VG200 ゲートウェイテンプレートの作成](#)」および「[Cisco VG200 ゲートウェイ用 CSV データファイルの作成 \(1 ページ\)](#)」を参照してください。
- Cisco Catalyst 6000 ポートを挿入する場合は、Cisco Catalyst 6000 ポートテンプレートと、この一括トランザクション用のポート詳細を含む CSV データファイルが必要です。「[Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) ゲートウェイテンプレートの作成](#)」および「[Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) ポート用の CSV データファイルの作成 \(4 ページ\)](#)」を参照してください。
- Cisco VG224 ゲートウェイを挿入する場合は、トランク用またはポート用の Cisco VG224 ゲートウェイテンプレートと、VG224 ゲートウェイポート用の CSV データファイルが必要です。「[Cisco VG200 ゲートウェイテンプレートの作成](#)」および「[Cisco VG200 ゲートウェイ用 CSV データファイルの作成 \(1 ページ\)](#)」を参照してください。
- Cisco VG202 または VG204 ゲートウェイを挿入する場合は、トランク用またはポート用の Cisco VG202 または VG204 ゲートウェイテンプレートと、VG202 または VG204 ゲートウェイポート用の CSV データファイルが必要です。「[Cisco VG202 または VG204 ゲートウェイテンプレートの作成](#)」および「[Cisco VG202 および VG204 ゲートウェイ用の CSV データファイルの作成 \(8 ページ\)](#)」を参照してください。

## 手順

**ステップ 1** [一括管理 (**Bulk Administration**)] > [ゲートウェイ (**Gateways**)] > [ゲートウェイの挿入 (**Insert Gateways**)] の順に選択します。

[ゲートウェイの挿入 (**Insert Gateways Configuration**)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ゲートウェイタイプ (**Gateway Type**)] ドロップダウンリストから、挿入するゲートウェイのタイプを選択します。

[ゲートウェイの挿入 (**Insert Gateways Configuration**)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** [ファイル名 (**File Name**)] フィールドドロップダウンリストで、追加する Cisco VG200 ゲートウェイ情報を含む CSV データファイルの名前を選択します。

**ステップ 4** [ゲートウェイテンプレート名 (**Gateway Template Name**)] フィールドで、このタイプの一括トランザクション用に作成した VG200 または FXS ゲートウェイテンプレートの名前を選択します。

**ステップ 5** (任意) [既存の設定の上書き (**Override the existing configuration**)] チェックボックスをオンにすると、既存のゲートウェイ設定が、挿入するファイルに含まれる情報によって上書きされます。

**ステップ 6** [ジョブ情報 (**Job Information**)] エリアにジョブの説明を入力します。

**ステップ 7** 挿入方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐにゲートウェイを挿入する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- b) 後でゲートウェイを挿入する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

**ステップ 8** ゲートウェイを挿入するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。  
[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュール追加またはアクティブ化します。

---

#### 関連トピック

[BAT ログ ファイル](#)

[スケジュールしたジョブの管理](#)





## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。